

北海道クリエイティブ株式会社

●事業計画名／PR動画制作・配信拠点「北海道ストーリーラボ」の創設



北海道ストーリーラボではマルチカメラ収録を可能にし、プレゼンターが台本を読んでいることが分かりにくいプロンプターを導入するなどプレゼン品質を向上



自ら価値を語る力＝プレゼン力の向上を
プロスタッフとラボのシステムが実現

共感を呼ぶストーリー動画の制作を、より手軽にスピーディに

同社では、顧客企業や地域の「伝えるべき真の強みと価値」を整理・明文化し、共感を呼ぶPRコンテンツとして制作・発信することを業務の主軸としている。本事業では同社の大きな強みである共

感を呼ぶストーリー動画の制作プロセスを効率化。「プレゼンテーション力の向上」に着目した仕組みで、より手軽にスピーディに、プロ品質の共感動画を制作できるラボが誕生した。

北海道クリエイティブ 株式会社

TEL／011-706-1050 FAX／011-706-1051 <https://www.do-cre.jp/>

住 所／北海道札幌市北区
北10条西3丁目16
北10条スクエアビル4階
代表者／吉田 聡子
資本金／3,000万円

設 立／昭和54年3月(旧社名／桐光クリエイティブ)
事業内容／広報・PR戦略プロデュース、動画企画制作
(テレビ番組、CM、プロモーション動画等)、
その他PRツール企画制作(Web、紙媒体
等)、各種発信支援 他

映像制作のプロチームが企業の価値発信を支援 ノウハウが詰まったラボで、共感ストーリーを紡ぎ出す

共感を呼び起こす質の高いストーリー動画は、企業や地域の価値を伝える強力なツールだ。一方で、プロ制作の動画コンテンツ制作では、ディレクターやカメラマンが現地に出向いての撮影、映像編集、台本作成、ナレーションやBGMの挿入と手間も時間もかかる。このラボでは、顧客自身がプレゼンテーションを行うことでナレーション録音や音作業の工程を削減し、背景画像とのリアルタイム合成や3方向撮影のスイッチングにより編集の後工程を簡略化。経費を抑えて持続的に発信したいWEB用の動画コンテンツなどを制作・配信するのに最適だ。



スタジオではディレクターが演出。
高品質動画・プレゼンを可能に

心動かす価値発信をプロがサポート

企業や商品の魅力を、どんなストーリーと構成で展開すればターゲットの心が動くのか。その企画と演出を経験豊富な映像制作のプロがしっかりサポートし、企業が発信するストーリーそのものの品質を高めていくのが、ラボの最大の特徴だ。単なる動画制作にとどまらない、企業の価値発信拠点となりそうだ。



2020年4月より株式会社桐光
クリエイティブから社名変更



企業や地域の魅力を 総合プロデュース

代表取締役・プロデューサー
吉田 聡子氏

当社はもともとテレビ番組やCM制作、PRビデオ制作を主業務とする会社でした。あるTV番組制作で私がディレクターを務め、会社経営をされている方のインタビューを続けているうちに、北海道の中小企業を応援したいという気持ちが強くなりました。どのようにすれば企業、地域、行政などの魅力や価値を発信していけるのか。それを企画提案し総合的にプロデュースする会社へと変化していきました。この北海道ストーリーラボの創設もその延長線にあったものの一つで、気軽にこのスタジオから企業や組織の方がメッセージを発信することができます。ブランディング、採用、販促活動などで、本当はどんな価値を伝えたいのか。皆さんの課題や思いをぜひお聞かせいただきたいと思います。

TOPIC

時代のニーズで高まる 北海道ストーリーラボへの期待

気軽に人と会えない時代の到来に、ラボのニーズが広がっている。たくさんの方が集まる展示会やセミナーの開催が難しくなり、製品の紹介プレゼンやオンラインセミナーの配信の需要が増えている。オンラインでの採用説明会や商談も増える中、心動かすストーリー動画を企業にもっと気軽に活用してもらいたいと、さらなる工夫と改良を続けている。



スタッフの企画・構成力の高さが
ラボの稼働率をアップ